Kong GatewayとFIWARE Orionの連携手順書 (1.2.0版)

2024年03月01日

一般社団法人データ社会推進協議会

改版履歴

バージョン	改版内容	公開日
1.0.0	初版 (Kong Gateway 2.8.0、FIWARE Orion 3.6.0を対象に作成)	2022/07/01
1.1.0	Kong Gateway 3.1.0、FIWARE Orion 3.7.0 向けに手順書を改版	2023/03/01
	1-1 に「図 1-1 本書の構成」を追加	
1.2.0	Kong Gateway 3.4.0、FIWARE Orion 3.10.1向けに手順書を改版	2024/03/01

目次

1. はじ	こめに	4
1-1.	概要	4
1-2.	参考資料	5
1-3.	前提条件	5
1-4.	構成図	5
1-5.	表記方法	6
1-5-	1. コマンドの表記方法	6
1-5-	2. コマンド入力結果の表記方法	6
2. 事前	〕準備	7
3. 設定		10
4. 動作	≡確認	14
4-1.	Orion のエンティティの作成	14
4-2.	Orion のエンティティの取得	15
4-3.	0rion のエンティティの更新	15

1. はじめに

本書は、API ゲートウェイとして利用するソフトウェアのKong Gateway とブローカー(非パーソナル) として利用するソフトウェアのFIWARE Orion (正式名称 Orion Context Broker)(以下、「 Orion 」) を連携する手順を記載・説明するものである。

1-1. 概要

本書では以下の手順で Kong Gateway と Orion を連携する。

- 1. Kong Gateway コンテナから Orion コンテナにアクセスできるようにするため、コンテナを起動し なおす。(2章)
- 2. Kong Gateway に Orion をサービスとして登録しルーティングの設定を行う。(3章)
- 3. Kong Gateway 経由で Orion のエンティティが作成できることを確認する。(4-1節)
- 4. Kong Gateway 経由で Orion のエンティティが取得できることを確認する。(4-2節)
- 5. Kong Gateway 経由で Orion のエンティティが更新できることを確認する。(4-3節)

2章では、事前準備として上記手順1について説明する。

3~4章では、上記手順2~5について説明する。3~4章の説明内容の関係性を図1-1に示す。



4章 Kong Gateway経由でのOrion APIの実行



1-2. 参考資料

本書では、以下の参考資料を参照している。

https://github.com/telefonicaid/fiware-

orion/blob/3.10.1/doc/manuals.jp/user/walkthrough_apiv2.md#context-management https://docs.konghq.com/gateway/3.4.x/

1-3. 前提条件

本書を用いて構築する際の前提条件は以下のとおりである。

- Kong Gateway 構築手順書を用いてインストールされていること。
- FIWARE Orion 構築手順書を用いてインストールされていること。
- Kong Gateway と Orion は同じ OS 上にインストールされていること。
- インターネットへアクセス可能であること。
- root ユーザーでログインできること。

1-4. 構成図

本書で連携させる Kong Gateway と Orion の構成図は以下の通りである。(図 1-2)



図 1-2 構成図

1-5. 表記方法 1-5-1. コマンドの表記方法

(例)

source ~/ENV.sh

コマンド入力を表す箇所については、上記のように実線で囲んでいる。 行頭の # はプロンプトであり、入力するのはそれ以降の青い背景色の部分である。

1-5-2. コマンド入力結果の表記方法

(例)

HTTP/1.1 201 Created Date: Wed, 27 Dec 2023 07:45:51 GMT Content-Type: application/json; charset=utf-8 :

コマンド入力結果を表す箇所については、上記のように破線で囲み橙色の背景色で表記している。

2. 事前準備

本章ではKong Gateway と Orion を連携する設定について記載・説明する。

はじめに連携させるマシン(Red Hat Enterprise Linux 7.9)へ root ユーザでログインしておくこと。

Kong Gateway、FIWARE Orion 各構築手順書での個別の構築ではお互いのコンテナ間で疎通できない状態 となっている。そのため、構築・起動済みの場合、いったん関連するコンテナをすべて削除してから作業 を行うこととする。

起動中の Docker コンテナを確認する。

#docker ps

起動中のコンテナの名称(NAME列)をメモしておく(以下の例ではkong, kong-database, orion, mongodb)。

CONTAINER ID PORTS	IMAGE	COMMAND	CREATED	STATUS		
NAMES						
c9a1a2fac33b	fiware/orion:3.10.1	"/usr/bin/contextBro…"	3 minutes ago	Up 3 minutes		
(healthy)		0.0.0:1026->102	26/tcp, :::	:1026->1026/tcp		
orion1						
a6f85be436bb	mongo:4.4	"docker-entrypoint.s"	4 minutes ago	Up 4 minutes		
27017/tcp						
mongodb						
b336b940662b	kong:3.4.0	"/docker-entrypoint"	15 minutes ago	Up 15 minutes		
(healthy) 0	.0.0.0:8000-8001->8000-	-8001/tcp, :::8000-8001->8	000-8001/tcp, 0.0	.0.0:8443-8444-		
>8443-8444/tcp, :::8443-8444->8443-8444/tcp kong						
b799acc02502	postgres:12.17	"docker-entrypoint.s"	17 minutes ago	Up 17 minutes		
0.0.0.0:5432->5432/tcp, :::5432->5432/tcp						
kong-database						

起動中のコンテナをいったん削除する。起動中のコンテナが存在しなかった場合はスキップする。

#	docker	rm	-f	<pre><orionのcontainer id=""></orionのcontainer></pre>	
#	docker	rm	-f	<mongoのcontainer id=""></mongoのcontainer>	
#	docker	rm	-f	<kongのcontainer id=""></kongのcontainer>	
#	docker	rm	-f	<kong-databaseのconta< td=""><td>INER ID></td></kong-databaseのconta<>	INER ID>

MongoDB を起動する。

docker run --name mongodb -d mongo:4.4

Orion を起動する。

#docker run -d --name orion1 --link mongodb:mongodb -p 1026:1026 fiware/orion:3.10.1 -dbhost mongodb

パラメータを準備する。

cat << EOF > ~/ENV.sh KONG HOST=kong KONG VERSION=3.4.0 USER PORT=8000 USER_HTTPS_PORT=8443 ADMIN PORT=8001 ADMIN_HTTPS_PORT=8444 DB_HOST=kong-database DB_VERSION=12.17 DB PORT=5432 DB_USER=kong DB_PASSWD=kong DB_NAME=kong SERVICE_NAME=orion1 SERVICE URL=http://orion1:1026 SERVICE_HOST=example.com ORION_USER_NAME=orion ORION USER KEY=GHfnFK45VFH EOF

各パラメータの詳細は以下の通りである。

- KONG_HOST: Kong Gateway の Docker コンテナの名前を指定する。
- KONG_VERSION: Kong GatewayのDockerイメージのバージョンを指定する。
- USER_PORT: Kong Gatewayの利用者向け API のポートを指定する。
- USER_HTTPS_PORT: Kong Gatewayの利用者向け API のポート(SSL)を指定する。
- ADMIN_PORT: Kong Gateway の管理用 API のポートを指定する。
- ADMIN_HTTPS_PORT: Kong Gateway の管理用 API のポート(SSL)を指定する。
- DB_HOST: PostgreSQL の Docker コンテナの名前を指定する。
- DB_VERSION: PostgreSQLの Docker イメージのバージョンを指定する。
- DB_PORT: PostgreSQL のポートを指定する。
- DB_USER: PostgreSQLの接続ユーザ名を指定する。
- DB_PASSWD: PostgreSQLの接続パスワードを指定する。
- DB_NAME: PostgreSQL のデータベース名を指定する。
- SERVICE_NAME: Kong Gateway に関連付ける Orion のサービス名称を指定する。
- SERVICE_URL: Kong Gateway に関連付ける Orion の URL を指定する。
- SERVICE_HOST: Kong Gateway に関連付けた Orion を呼び出す際のホスト名を指定する。
- ORION_USER_NAME: Kong Gateway 認証プラグインで Orion に認証する際のユーザ名を指定する。
- ORION_USER_KEY: Kong Gateway 認証プラグインで Orion に認証する際の認証キーを指定する。

パラメータを読み込む。

source ~/ENV.sh

PostgreSQL を起動する。

一時的な Kong Gateway コンテナを用いて PostgreSQL のマイグレーションを行う。

```
# docker run --rm ¥
    --link $DB_HOST:$DB_HOST ¥
    -e "KONG_DATABASE=postgres" ¥
    -e "KONG_PG_HOST=$DB_HOST" ¥
    -e "KONG_PG_USER=$DB_USER" ¥
    -e "KONG_PG_PASSWORD=$DB_PASSWD" ¥
    -e "KONG_CASSANDRA_CONTACT_POINTS=$DB_HOST" ¥
    $KONG_HOST:$KONG_VERSION kong migrations bootstrap
```

Kong Gateway コンテナを起動する。



3. 設定

Kong Gateway から Orion の API につなぐため、Kong Gateway にサービスを登録する。

```
# curl -i -X POST ¥
    --url http://localhost:$ADMIN_PORT/services/ ¥
    --data "name=$SERVICE_NAME" ¥
    --data "url=$SERVICE_URL"
```

201 Created が返却されることを確認する。

```
HTTP/1.1 201 Created
Date: Fri, 29 Dec 2023 05:54:25 GMT
Content-Type: application/json; charset=utf-8
:
```

Kong Gateway がアクセスされたときにどのサービスを呼び出すかを決めるため、ルーティングを追加する。

以下の例では、リクエストのホスト名が Orion サービスホスト名と一致した時となる。

```
# curl -i -X POST ¥
    --url http://localhost:$ADMIN_PORT/services/$SERVICE_NAME/routes ¥
    --data "hosts[]=$SERVICE_HOST"
```

201 Created が返却されることを確認する。

```
HTTP/1.1 201 Created
Date: Fri, 29 Dec 2023 05:56:25 GMT
Content-Type: application/json; charset=utf-8
:
```

ルーティングの有効性を確認するため、Kong Gatewayのサービスにアクセスを行う。



Kong Gatewayのサービスにアクセスした際の Orion 情報が返却されることを確認する。

```
_____
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: application/json
Content-Length: 745
Connection: keep-alive
Date: Fri, 29 Dec 2023 05:57:47 GMT
Fiware-Correlator: 311eebec-a60f-11ee-8652-0242ac110003
X-Kong-Upstream-Latency: 1
X-Kong-Proxy-Latency: 0
Via: kong/3.4.0
{
"orion" : {
  "version" : "3.10.1",
 "uptime" : "0 d, 0 h, 25 m, 52 s",
 "git_hash" : "9a80e06abe7f690901cf1586377acec02d40e303",
 "compile time" : "Mon Jun 12 16:55:20 UTC 2023",
 "compiled_by" : "root",
 "compiled in" : "buildkitsandbox",
 "release_date" : "Mon Jun 12 16:55:20 UTC 2023",
 "machine" : "x86_64",
 "doc" : "https://fiware-orion.rtfd.io/en/3.10.1/",
```

このままでは無制限にアクセスできてしまうため、認証プラグインを追加する。

```
# curl -i -X POST ¥
    --url http://localhost:$ADMIN_PORT/services/$SERVICE_NAME/plugins/ ¥
    --data 'name=key-auth'
```

201 Created が返却されることを確認する。



認証が有効であることを確認する。

```
# curl -i -X GET ¥
    --url http://localhost:$USER_PORT/version ¥
    --header "Host: $SERVICE_HOST"
```

認証が有効になっているために、Kong Gatewayのサービスにアクセスできず「No API key found in request」と表示され、401 認証エラーが返却されることを確認する。

HTTP/1.1 401 Unauthorized
Date: Fri, 29 Dec 2023 06:03:17 GMT
Content-Type: application/json; charset=utf-8
 :
 {
 "message":"No API key found in request"
}

認証を通過できるようにするため、コンシューマ(利用者ユーザ)を追加する。

curl -i -X POST ¥
 --url http://localhost:\$ADMIN_PORT/consumers/ ¥
 --data "username=\$ORION_USER_NAME"

201 Created が返却されることを確認する。

```
HTTP/1.1 201 Created
Date: Fri, 29 Dec 2023 06:04:46 GMT
Content-Type: application/json; charset=utf-8
:
```

コンシューマ(利用者ユーザ)に認証キーを設定する。



201 Created が返却されることを確認する。



認証が通過できることを確認する。

```
#curl -i -X GET ¥
    --url http://localhost:$USER_PORT/version ¥
    --header "Host: $SERVICE HOST" ¥
    --header "apikey: $ORION_USER_KEY"
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: application/json
Content-Length: 745
Connection: keep-alive
Date: Fri, 29 Dec 2023 06:11:13 GMT
Fiware-Correlator: 116f99ac-a611-11ee-86bb-0242ac110003
X-Kong-Upstream-Latency: 0
X-Kong-Proxy-Latency: 6
Via: kong/3.4.0
{
"orion" : {
 "version" : "3.10.1",
 "uptime" : "0 d, 0 h, 39 m, 18 s",
 "git_hash" : "9a80e06abe7f690901cf1586377acec02d40e303",
 "compile_time" : "Mon Jun 12 16:55:20 UTC 2023",
 "compiled_by" : "root",
 "compiled_in" : "buildkitsandbox",
 "release_date" : "Mon Jun 12 16:55:20 UTC 2023",
 "machine" : "x86_64",
 "doc" : "https://fiware-orion.rtfd.io/en/3.10.1/",
```

認証キーを指定することで、Kong Gatewayのサービスにアクセス可能となり、Orion 情報が返却される ことを確認する。 4. 動作確認

本章では、正しく連携ができているか、Kong Gateway 経由で Orion の API を実行し確認を行う。

4-1. Orion のエンティティの作成

ここでは、Room1という名前のエンティティを作成する。



201 Created が返却されることを確認する。



4-2. Orion のエンティティの取得

次に、前章で作成したエンティティが確認できるかどうか取得する。

```
# curl -s -X GET ¥
    --url http://localhost:$USER_PORT/v2/entities/Room1 ¥
    --header "Accept: application/json" ¥
    --header "Host: $SERVICE_HOST" ¥
    --header "apikey: $ORION_USER_KEY" | python -mjson.tool
```

エンティティの情報が取得できることを確認する。

```
{
    "id": "Room1",
    "pressure": {
        "metadata": {},
        "type": "Integer",
        "value": 720
    },
    "temperature": {
        "metadata": {},
        "type": "Float",
        "value": 23
    },
    "type": "Room"
}
```

4-3. Orion のエンティティの更新

最後に、Room1 エンティティの値を更新する。

```
# curl -i -X PATCH ¥
    --url http://localhost:$USER_PORT/v2/entities/Room1/attrs ¥
    --header "Content-Type: application/json" ¥
    --header "Host: $SERVICE_HOST" ¥
    --header "apikey: $ORION_USER_KEY" ¥
    --data @- <<EOF
{
    "temperature": {
        "value": 26.5,
        "type": "Float"
    },
    "type": "Float"
    }
EOF
</pre>
```

204 No Content が返却されることを確認する。

```
HTTP/1.1 204 No Content
Connection: keep-alive
Date: Fri, 29 Dec 2023 06:18:19 GMT
:
```

更新したエンティティを取得して、値が反映されているか確認する。

```
# curl -s -X GET ¥
    --url http://localhost:$USER_PORT/v2/entities/Room1 ¥
    --header "Accept: application/json" ¥
    --header "Host: $SERVICE_HOST" ¥
    --header "apikey: $ORION_USER_KEY" | python -mjson.tool
```

エンティティの情報が更新されていることを確認する。

